

October 28, 2020

【前日の為替概況】ドル円、反落 欧米株の失速でリスク回避

27日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は104.42円と前営業日NY終値(104.84円)と比べて42銭程度のドル安水準だった。欧州株相場の下落や米国株の失速を背景にリスク回避的な円買い・ドル売りが先行。0時30分過ぎに一時104.39円と日通し安値を付けた。米10年債利回りが0.7659%前後まで低下したことも相場の重し。ただ、21日の安値104.34円が目先サポートとして意識されると104.50円付近まで下げ渋った。

この日発表の9月米耐久財受注額や10月米リッチモンド連銀製造業景気指数は予想を上回った一方、10月米消費者信頼感指数は予想を下回るなど強弱入り混じる結果となったため、相場の反応は限られた。

ユーロドルは小幅続落。終値は1.1796ドルと前営業日NY終値(1.1810ドル)と比べて0.0014ドル程度のユーロ安水準だった。米長期金利の低下に伴うユーロ買い・ドル売りが先行し一時1.1839ドルと日通し高値を付けたものの、NY中盤以降は上値の重さが目立った。欧州中央銀行(ECB)定例理事会を29日に控えて積極的な売買が見送られる中、欧州で新型コロナウイルス感染の拡大が止まらず、行動制限などの規制強化による経済悪化を警戒したユーロ売りが出た。取引終了間際には一時1.1793ドルと日通し安値を付けた。

なお、ベルギー政府高官は「週末までに全土にロックダウン(都市封鎖)措置を再導入するかを決定する」と述べたほか、ショルツ独財務相は「感染拡大抑制に向けて的を絞った、一時的かつ集中した措置を可能な限り全土に導入する必要がある」との認識を示した。また、フランスのマクロン大統領は明日28日にも新たなコロナ対策について発表すると伝わった。

ユーロ円は続落。終値は123.16円と前営業日NY終値(123.81円)と比べて65銭程度のユーロ安水準。ユーロドルが日通し高値を付けたタイミングで一時123.85円付近まで買い戻されたものの、頭は重かった。欧州各国政府がコロナ対策で制限措置の導入に動くとの観測が高まる中、ドル円の下落につれた売りも出て123.16円の本日安値で取引を終えた。

トルコリラは対ドルで一時8.2036リラ、対円で12.74円と史上最安値を更新した。トルコ中銀が先週、市場の予想に反して利上げを見送ったことが引き続きリラ売り材料と見なされたほか、同国と欧米との政治的な関係悪化が嫌気された。アルバイラク財務相の「競争力のある為替レートがトルコ輸出を拡大させる」との発言が「リラ安容認」と受け止められたこともリラの重し。

【本日の東京為替見通し】欧州通貨に対するドル買い優勢か、欧州ロックダウン再開の可能性も

本日の為替市場も欧州通貨を中心とした値動きとなるか。ドル円は本日もリスクオフのドル売り・円売りの両サイドに挟まれて大きな値動きを期待するのは難しそうだ。ただし、上値は徐々に切り下がってきてはいる。一昨日105円台に乗せたものの、上値を広げることが難しく、市場もあえて105円にトライをするような地合いではない。しかも、本日は月末応当日ということで、本邦実需勢のドル売りも散見される可能性が高いこともドル円の上値を抑えそう。その一方で下値は、円以外の通貨に対しては、軟調な株式市場を嫌気し、リスク回避のドル買い戻しの動きが根強いことが支えとなりそう。

欧州通貨は本日も上値が重そう。欧州の新型コロナウイルス感染第2波が深刻で、NY引け後にフランスが1カ月、ドイツが2週間のロックダウンを行う可能性を一部で報道されている。欧州各国は感染者数だけでなく、死者数も大幅に増加していることもあり、現時点ではロックダウンに否定的な各国首脳も方針を変更せざる終えなくなるかもしれない。ドル買いが一時的に利食いなどで勢いを弱めたとしても、感染第2波がより深刻になっていることで、ドル需要は根強くなりそう。またロンドンで行われている英国と欧州連合(EU)の首席交渉官級による協議が本日でいったん終了する。この協議の結果内容も欧州通貨を動意づけることになるだろう。

米国のウイルス感染第2波と政治動向も市場を動意づける。米国も37州で感染の拡大が確認されて深刻さが増している。トランプ米大統領は「感染者数の増加は検査数が増えているから」「感染者の増加はメディアのフェイクニュース」などと、対策を講じる予定がないため、各州の自治体が自主的な夜間外出規制などを発して感染抑制を努めている。経済活動にも徐々に影響を及ぼしてきて、どの程度株安によるドル買いの動きになるかを見極める必要があるそう。

政治状況では本日はトランプ氏が中西部、バイデン氏はジョージア州の激戦州で遊説している。大統領

選挙は事前投票がすでに67万票に達していることもあり、バイデン氏の優勢は変わらないが、上院選挙にも注目が集まっている。大統領と上院の過半数がねじれた場合は、米国の今後2年間は政策進行が滞ることになり、大統領選とともにこれからの1週間の動きが興味深い。

本日の経済指標は、日本時間9時半に7-9月期豪消費者物価(CPI)の発表が控えている。市場では来週11月3日の豪準備銀行(RBA)理事会で政策金利並びに3年債の目標利回りを0.25%から0.10%に引き下げるという予想が大半を占めていることで、CPIの結果次第でこの予想が若干変わる可能性もあるので注目したい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○日銀金融政策決定会合(1日目)

<海外>

- 09:30 ◎ 7-9月期豪消費者物価(CPI、予想:前期比1.5%/前年同期0.7%)
- 16:00 ◇ 9月独輸入物価指数(予想:前月比▲0.3%/前年比▲4.8%)
- 16:45 ◇ 10月仏消費者信頼感指数(予想:93)
- 17:00 ◎ 9月南アフリカCPI(予想:前月比0.3%/前年比3.1%)
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 20:15 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 23:00 ☆ カナダ銀行(BOC、中央銀行)、政策金利発表(予想:0.25%で据え置き)
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 24:00 ◎ マックレムBOC総裁、記者会見
- 29日 02:00 ◎ 米財務省、5年債入札
- 29日 06:00頃 ☆ ブラジル中銀、政策金利発表(予想:2.00%で据え置き)
- トルコ株式市場は短縮取引(共和国宣言記念日前夜)
- 英国と欧州連合(EU)の首席交渉官級による協議(ロンドン、最終日)

29日

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況(週次・報告機関ベース)
- 08:50 ◇ 9月商業販売統計速報(小売業販売額)

<海外>

- 07:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、パネルディスカッションに参加
- 09:30 ◇ 7-9月期豪輸入物価指数

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

27日 13:07 デベル RBA(豪準備銀行)副総裁

「第3四半期 GDP はプラス成長に転換した可能性が高い」

「失業率は6%以下が妥当な目標」

「来週の会合でQE(量的緩和)が発表される可能性についてはコメントできない」

27日 23:25 アルバイラク・トルコ財務相

「資本規制などは全く考えていない」

「新型コロナによる観光業へのダメージがリラ安に影響した」

27日 23:53 ホワイトハウス報道官

「ペロシ米下院議長の提案を見る限り、選挙前に合意する可能性はわずか」

28日 00:55 欧州連合(EU)高官

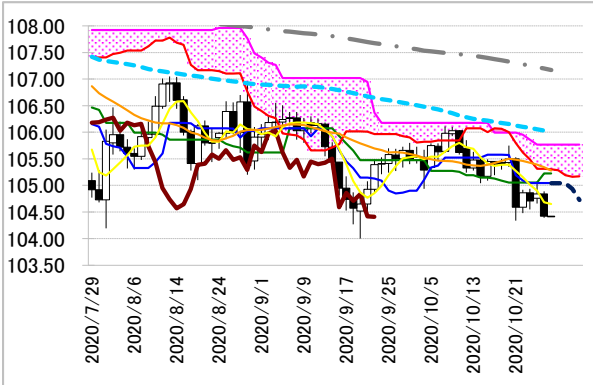
「21年末までは、EU全人口に対し十分な量の新型コロナワクチンを準備できない可能性」

28日 02:16 トランプ米大統領

「選挙後には過去最高の景気刺激策を得ることができるだろう」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

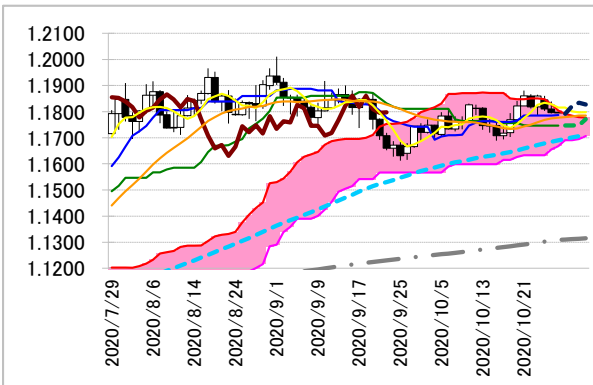


<ドル円=目先の下値めど抜けての大台替わり意識>

陰線引け。21日に下げ渋った104.34円付近の動きとなっている。

同水準前後で反発できず明確に下抜ければ、下落加速による9月21日安値104.00円の突破で大台替わりとなる展開へ向かうことになりそう。反発しても、今後の急低下が予想される一目均衡表・転換線が上昇を抑えそうななかでは、やはり下向きリスクが強く意識されやすい。

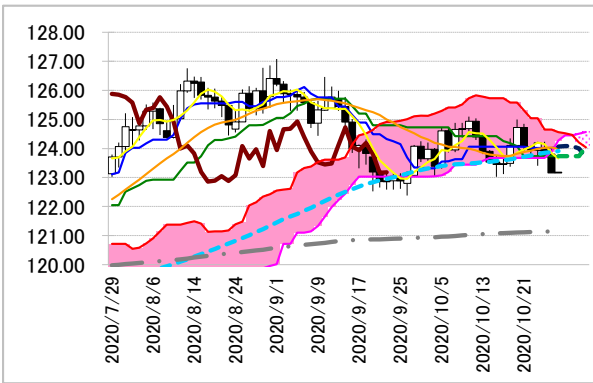
レジスタンス1	105.05(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	104.42
サポート1	104.00(9/21 安値)
サポート2	103.62(10/21-26 上昇幅の下方倍返し)



<ユーロドル=転換線付近の動向注視>

上影小陰線引け。目先の上昇が見込まれる一目均衡表・転換線1.1788ドル付近の攻防となる。同線を割り込んでも、一目・基準線1.1747ドルが支えとなりそうな状況に変化はない。基準線を下抜けると、15日安値1.1689ドルが次の下値めど。付近には1.1690ドル前後で上昇中の90日移動平均線や一目・雲の下限1.1668ドルも控えている。下押しがあっても進み方は段階的で緩やかなペースにとどまるか。

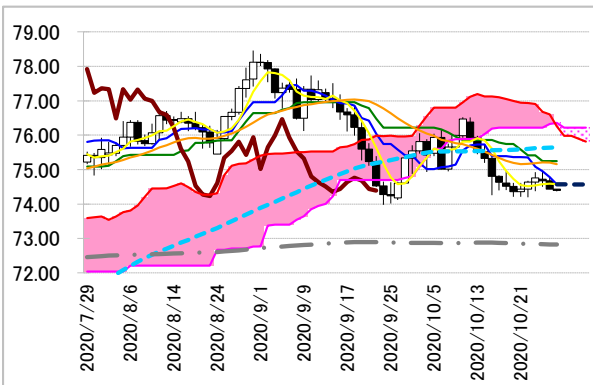
レジスタンス1	1.1855(ピボット・レジスタンス2)
前日終値	1.1796
サポート1	1.1747(日足一目均衡表・基準線)



<ユーロ円=21日線などが戻り抑制>

上影陰線引け。目先の支えになると期待した一目均衡表・基準線123.74円を下抜け、123円付近まで下値を広げた。小幅な上昇の可能性を残す基準線に再び近づく展開も想定できるが、124円前後には低下中の21日移動平均線、やや上にはほどなく頭打ちとなる見込みの一目・転換線124.06円も控えており、戻りを抑制しそうだ。

レジスタンス1	123.99(21日移動平均線)
前日終値	123.16
サポート1	122.38(9/28 安値)



<豪ドル円=転換線付近のレンジ維持できるか>

上影小陰線引け。低下傾向の一目均衡表・転換線付近で重い動きとなっている。転換線は本日74.57円まで低下したが、ここで底打ちする可能性がある。ただ、同線が水準を持ち直し始めるのは、現状からすれば1週間後の来週半ば11月4日となる見込み。転換線付近のレンジを維持して同線とともに上昇へ転じるよりも、22日安値74.19円や9月24日安値73.98円といった下値の節目を抜けて下落を加速させるリスクがより意識される。

レジスタンス1	74.95(10/26 高値)
前日終値	74.44
サポート1	73.98(9/24 安値)

